

平成27年度「福井ふるさと元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果
(平成28年3月末現在)

「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成27年7月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成28年3月

観光営業部長 佐々木 康男

項目	実施結果
<p>1 高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略</p> <p>◇「幸福日本一・福井」の新ブランド戦略【部局連携】</p> <p>○「福井の知名度・好感度」全国上位へ</p> <p>・幸福日本一の秘密を分析し、「幸福日本一の福井の暮らし」など、福井ならではの魅力をインターネットやポスター等により国内外へ広く発信します。</p> <p>(平成26年度 知名度・好感度 45位)</p> <p style="text-align: right;">42位</p>	<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>本県のダントツブランドである「恐竜」を活かし、JR山手線での恐竜ラッピング列車の運行や映画「ジュラシック・ワールド」の公開に合わせた恐竜博物館のCM、東急ハンズや百貨店など民間との共動による大都市圏でのイベント、ホテルや水族館などでの骨格標本の貸出・展示などを行い、本県の知名度・好感度の向上に努めました。</p> <p>また、「FUKUI HAPPINESS」をキャッチコピーとした幸福日本一の福井県の魅力を伝える観光ポスターを新たに9種類制作し、県内外のイベント等においてPRを行いました。</p> <p style="text-align: right;">29位</p> <p style="text-align: center;">※ブランド総合研究所「地域ブランド調査2015」結果</p>
<p>○福井が主役の「大河ドラマ」</p> <p>・平成30年が明治維新150年の節目となることから、幕末・維新に活躍した本県ゆかりの偉人を題材としたテレビドラマ化に向け、県内気運を高めるとともに、誘致活動を本格化します。</p>	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>平成27年11月13日に県や市町、観光・商工団体等68団体から構成する「福井県大河ドラマ誘致推進協議会」を設立し、由利公正を主人公とし、幕末明治の福井の偉人達が活躍する、平成30年のNHK大河ドラマの誘致を目指すことを決定しました。同17日には、NHK会長への要望を実施し、その後も、NHK関係者に対し、福井の幕末明治のエピソードを紹介するかわら版や新聞記事、パンフレット等を送付するなど、働きかけを続けております。</p> <p>県内では、県民の機運醸成に向け、歴史家や時代考証家などを招いたシンポジウムや著名人による講演会を開催し、幕末明治の福井の偉人達の生き方やエピソードを通して関心を深めていただいたほか、出版社とのコラボによるコミック本の発行、由利公正ゆかりのかまど「三岡へっつい」の再現・披露を行いました。また、県内金融機関の約320の本支店、JRの駅等でポスター掲示や展示会を行ったほか、日本赤十字社福井県支部や大手都市銀行等、民間による自主的なPR活動が実施されました。</p> <p>首都圏では、東京の中央区役所や保険会社等での展示会、福井の偉人ゆかりの都県や航空会社との共動によるPR活動を実施しました。</p> <p>また、NHK Eテレの「知恵泉」において、由利公正が取り上げられ、全国にその功績等が広く紹介されました。</p>

項目	実施結果
<p>○福井のアニバーサリー</p> <ul style="list-style-type: none"> 幕末・維新に活躍し、近代日本の幕開けに活躍した本県ゆかりの偉人達について、功績やエピソードを収集するとともに、県内外の歴史研究者等を招いた会議を開催して検証を行い、その結果を県民、全国に発信します。 	<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>歴史家や時代考証家などの有識者を招いた「幕末明治の福井の偉人達検証会議」を開催し、近代日本の幕開けに活躍した本県ゆかりの偉人達の功績やエピソードについて検証を行いました。</p>
<p>◇「恐竜渓谷100万人構想」の実現【部局連携】</p> <p>○楽しみ学べる恐竜博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> 大型肉食恐竜「アロサウルス」の実物全身骨格など32体の化石等を新たに購入し、組立作業の公開も含め、展示のスケールアップを図ります。 (平成26年度 恐竜博物館入館者数 70万9千人) <p style="text-align: right;">80万人</p> <ul style="list-style-type: none"> 展示・研究機能やアミューズメント機能を強化するため、「第2恐竜博物館」について、民間活力の導入も含め、整備方策を検討します。 勝山市内において「動く恐竜ライブ」を開催し、恐竜博物館とまちなかの周遊の流れを作り、地域全体の誘客を促進します。 	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>昨年10月に榊原から新たに恐竜化石等32体を購入し、11月に18体の展示を公開したほか、今年2月には、全長約22メートルの大型草食恐竜「ブラキオサウルス」を常設展示しました。平成29年度までに、実物全身骨格の組立作業の公開も含め、順次展示する予定です。</p> <p>こういった展示のスケールアップに加え、首都圏等での観光プロモーションや映画「ジュラシック・ワールド」の上映に合わせた恐竜博物館のCM、東急ハンズなど民間との共動によるイベントなど、様々な宣伝・誘客活動により、今年度の入館者数は93万人に達しました。</p> <p style="text-align: right;">93万人</p> <p>第2恐竜博物館について、本物による魅力アップに加え、アミューズメント機能の強化やサービス向上等について、民間事業者から情報収集を行いました。</p> <p>来年度は、これを基に民間活力の導入も含め、基本構想・計画を策定していきます。</p> <p>県、勝山市、事業者の3者で実行委員会を組織し、8月1日から24日までの24日間、勝山市で「D I N O - A - R L I V E i n ふくい勝山2015」を開催しました。</p> <p>期間中17,308人が観覧し、好評でした。</p>
<p>○恐竜学研究の世界拠点へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 第4次恐竜化石発掘調査や国内外の共同発掘調査・研究を継続して進めるとともに、アジア6か国で構成する「アジア恐竜協会」の中心的役割を担い、アジアにおける恐竜研究の拠点としての地位を確立します。 	<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>3年目となる第4次恐竜化石発掘調査では、アンキロサウルス類の足跡化石やゴキブリ類の化石など、貴重な資料を発見しました。</p> <p>また、平成19年の第3次調査で発見した小型獣脚類の化石が、本県では5種類目（国内では7種類目）となる新種として認められ、「フクイベナートル・パラドクサス」として学名が認められました。</p> <p>さらに、平成19年度から行っているタイとの共同研究の成果として、平成23年に発見した恐竜が、新種のイグアノドン類であることが明らかになりました。</p>

項目	実施結果
<p>○恐竜ビジネスの新展開</p> <p>・大企業や有名キャラクターとのコラボなど、公式恐竜ブランド「ジュラチック」を活用した全国流通商品の開発・販売を促進します。</p>	<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>ヤマト運輸とコラボし、宅配使用ボックスを製作したほか、県内事業者がラプトをデザインした工事用バリケードを製作するなど、公式恐竜ブランド「ジュラチック」を活用した商品数が263アイテムに拡大しました。</p> <p>出版社フレーベル館とコラボした絵本や菓子メーカーのカバヤ食品とのコラボ商品の製作が決定し、来年度の全国販売に向けて、企画内容やロイヤリティ、製造個数等の調整を行いました。</p> <p>また、サンリオの有名キャラクター「ハローキティ」とのコラボデザインを使用した県内企業による商品の開発に向け、1月に県内2か所で説明会を行いました。</p> <p>さらに、JR福井駅の中央階段ラッピングやショッピングセンター・ベルでの屋外レストランの開設、ラッピング自動車、コンビニでの電子マネーカードなど、県内外の企業での「ジュラチック」の活用が促進されました。</p>
<p>◇観光フロンティア・福井【部局連携】</p> <p>○100万人観光地の創出</p> <p>・現在、県内7地区で実施している「観光まちなみ魅力アップ事業」を着実に推進するとともに、100万人観光地の創出に向け、「観光エリア」としての魅力を高めるため、ハード・ソフト両面から「線と面」に対する支援スキームをつくりまします。</p> <p>(平成26年度 100万人観光地 1か所)</p> <p>1か所増 累計2か所</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>明治初期の洋館を復元した「福井市グリフィス記念館」、日本最大級のジオラマやレストランを有する「敦賀赤レンガ倉庫」が平成27年10月にオープンしました。</p> <p>また、明治時代の芝居小屋を復原する「小浜市まちなみ」が3月に完成し、5月1日にオープンします。</p> <p>そのほか、あわら温泉街の街路整備、永平寺門前の旧参道等の整備に向けた設計等、今庄宿のまちなみ整備、若狭町縄文ロマンパークの園路や植栽の整備を進めました。</p> <p>北陸新幹線敦賀開業や中部縦貫自動車道県内全線開通に向けて、さらなる誘客拡大やリピーター確保のため、複数市町の連携による周遊・滞在型の観光推進を図ります。</p> <p>そのため、これまで整備してきた核となる観光地や周辺の観光地をつなぎ、「線と面」での魅力向上や発信力の強化を図られるよう、ハード・ソフト両面から支援するスキームをつくりまします。</p> <p>なお、北陸新幹線金沢開業効果、また首都圏や中京・関西で実施した誘客プロモーションの効果により、一乗谷朝倉氏遺跡(108万人)、恐竜博物館・かつやま恐竜の森(105万人)、あわら温泉(102万人)が新たに入込数100万人を超える観光地となり、県内の100万人観光地は東尋坊(148万人)と合わせて4か所となりました。</p> <p>3か所増 累計4か所</p>

項目	実施結果
<p>○観光客1300万人の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 北陸新幹線金沢開業に伴う観光客の増加傾向を確実なものとするため、上野駅など首都圏において集中プロモーションを実施します。 「北陸デスティネーションキャンペーン」において、食の祭典や知名度の高い観光地を周遊するバスツアーなど、本県の魅力をアピールするイベントなどを実施します。 若狭さとうみハイウェイや京都縦貫自動車道を活用して、関西・中京圏だけでなく、中国・四国地方からの誘客拡大も図るため、「海湖と歴史の若狭路」キャンペーンや京都府、滋賀県等と連携した高速道路企画割引などを実施します。 日本遺産「御食国若狭と鯖街道」を活用し、関西からのゲートウェイである熊川宿から若狭全域で歴史文化や食などを巡る周遊観光を推進し、国内外からの観光客の増加につなげます。 (平成26年 観光客入込数 1,130万人) <p style="text-align: right;">1,200万人</p> <ul style="list-style-type: none"> 核となる観光地のさらなる磨き上げを着実に進めるとともに、市町と連携した観光地のネットワーク化、土産品や食べ物の開発、新たな観光ルートの設定などを進め、観光消費額の拡大につなげます。 (平成26年 観光消費額 876億円) <p style="text-align: right;">1,000億円</p>	<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>北陸への全国からの注目が集まる中、首都圏および北陸新幹線沿線において、多様なプロモーションを実施しました。ゴールデンウィークには、JR秋葉原駅での恐竜ライブショーの実施および観光PR、そして、夏休み期間には、恐竜王国福井をPRする山手線車体広告やJR上野駅での大型フラッグ広告や出向宣伝などを実施しました。</p> <p>さらに、9月には、東京ビッグサイトでの世界最大級の旅の祭典「ツーリズムEXPOジャパン2015」に福井県ブースを出展しました。</p> <p>10月から12月までの3か月間、北陸3県とJRグループなどとの共同で北陸デスティネーションキャンペーンを開催しました。本県では、10月1日のJR福井駅でのオープニングセレモニーを皮切りに、県立美術館での「大永平寺展」、ふくい味の祭典に合わせた「北陸3県食の祭典」、県内主要観光地を結ぶ「福井の一押しバスツアー」の運行のほか、ご当地ならではの趣向を凝らしたプログラムを県内各地で展開しました。</p> <p>その結果、期間中の観光客入込数は、主要観光地6か所で合わせて26.8%増加しました。</p> <p>7月から11月までの5か月間、「海湖と歴史の若狭路」キャンペーンの第2弾を嶺南市町とともに開催しました。日本遺産「御食国若狭と鯖街道」をはじめ、若狭歴史博物館での特別展、バイクルーズキャンペーン、敦賀赤レンガ倉庫オープンなどにより、誘客拡大や周遊促進を図りました。</p> <p>合わせて、京都府、滋賀県等と連携した高速道路企画割引を実施しました。</p> <p>その結果、期間中の観光客入込数は、主要観光地4か所で若狭さとうみハイウェイが全線開通して大幅に増加した昨年の入込数をおおむね維持しました。</p> <p>「鯖街道」の日本遺産認定をPRし、国内外からの観光客を増加させるため、ゲートウェイとなる道の駅「若狭熊川宿」の資料展示館、にぎわい広場を3月にリニューアルオープンしました。</p> <p>外国人にも分かりやすい漫画を使った鯖街道等の歴史紹介やイベントに利用できる広場の整備を行いました。</p> <p style="text-align: right;">1,270万人（見込み）</p> <p>市町と連携し、11月に国の登録文化財となった旧北陸線トンネル群を含む近代化遺産、恐竜、鯖街道や秘仏めぐり、伝統産業などをテーマとし、県内を周遊する福井ならではのツアーを旅行会社に働きかけ、新たな商品造成を図りました。</p> <p style="text-align: right;">937億円（見込み）</p>

項 目	実 施 結 果
<ul style="list-style-type: none"> ・観光事業者などが行う、地域資源を活かした魅力ある土産品の開発・販売を支援するとともに小松空港のアンテナショップなど販路拡大もサポートし優良土産品づくりを促進します。 ・観光実態調査やビッグデータなどを活用して、観光客の移動経路、利用交通機関ごとの立ち寄り箇所などの傾向を調査・分析し、新たな観光地や観光ルートの整備に反映させます。 	<p>平成27年8月に小松空港において、新たなアンテナショップを開設し、空港を利用する客に対して、県内産の土産品の販売・PRを開始しました。また、航空会社や百貨店パイヤーと連携し、新たな土産品開発を進めました。</p> <p>県内の観光客動向を把握するため、国の調査や民間調査、観光動態調査のほかに、県独自にあわら温泉でのアンケート調査、県内11宿泊施設におけるアンケート調査などを実施しました。</p>
<p>○嶺南観光の新推進体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「海湖と歴史の若狭路」の広域観光圏を確立するため、県と嶺南市町、観光団体、民間事業者等による観光推進体制を強化します。 <p>(平成26年 嶺南地域の主要観光地入込客数 333万人)</p> <p style="text-align: right;">350万人</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。(さらに強化します)</p> <p>平成28年3月に若狭湾観光連盟を嶺南振興局内に移転し、27年5月に設置された観光・地域振興室と連携して嶺南の観光を推進する体制を強化しました。</p> <p style="text-align: right;">351万人(見込み)</p>
<p>○奥越を自然環境の体験学習エリアに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恐竜博物館やスキージャンプ勝山を訪れている観光客をターゲットに、奥越エリアの自然環境体験学習等ができる周遊観光ルートを確立し、誘客を図ります。 <p>(平成26年 六呂師高原入込客数 116,000人)</p> <p style="text-align: right;">128,000人</p>	<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>平成28年度中の中部縦貫自動車道永平寺大野道路の全線開通に向け、周遊観光ルートの核となる「六呂師高原」の活性化を図るため、大野市、勝山市、地元地区、関係団体等で組織する「六呂師高原活性化推進協議会」を平成27年10月に設立し、地域全体のランドデザインや活性化策などの話し合いを行いました。</p> <p>また、六呂師高原内施設の受け入れ体制や施設整備を推進し、連携して活用促進を図る取組みを行いました。</p> <p style="text-align: right;">161,000人(見込み)</p>
<p>○海外誘客の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県の重点市場と位置付ける台湾、香港、中国、タイ、シンガポールにおいて、海外事務所を活用し、現地旅行社への訪問営業等の誘客宣伝を行います。 <p>(平成26年 外国人宿泊者数 31,000人)</p> <p style="text-align: right;">42,000人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人誘客に向けて、本県観光の新たなブランド設定を行うとともに、売り込んでいくべき顧客領域の絞り込みを図ります。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>台湾、香港、中国、タイ、シンガポールやインドネシアなどにおいて、海外事務所とともに、現地旅行社への訪問営業を行うなど、誘客宣伝を行いました。</p> <p style="text-align: right;">59,000人</p> <p>外国人誘客に向けて、本県の生活や文化の底流にあり、外国人の認知度・関心度が高い“ZEN”を中核とするブランド設定を行いました。</p>

項 目	実 施 結 果
<ul style="list-style-type: none"> ・国の広域観光周遊ルートに認定された「昇竜道」や「美の伝説」を活用し、本県を含む広域観光コースを設定し、関係府県とともに海外に売り込みます。 ・外国人受入環境の推進のため、主要観光地において無料公衆無線 LAN 環境を整備するとともに、消費税免税店の開設を支援します。 (平成 26 年度 無料公衆無線 LAN 整備済みの入込数 20 万人以上の観光地 6 か所、消費税免税店数 8 店) <p style="text-align: center;">無料公衆無線 LAN 整備済み年度末現在 24 か所増 累計 30 か所 消費税免税店数年度末現在 20 店増 累計 28 店</p>	<p>国の広域観光周遊ルートに認定された「昇竜道」や「美の伝説」について、近隣県とともに、本県を含む広域観光ルートを設定し、海外旅行会社の視察招へいやメディアの取材支援を実施するなど、海外に対して売り込みを実施しました。</p> <p>県内の主要な観光地や宿泊施設等における無料公衆無線 LAN 環境を整備や消費税免税店の開設について支援を行いました。</p> <p style="text-align: right;">無料公衆無線 LAN 整備済み 24 か所増 累計 30 か所 消費税免税店数 21 店増 累計 29 店 (*平成 27 年 10 月 1 日現在)</p>
<p>○観光人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井県観光アカデミーを開設し、本件観光におけるイノベーションを創出するため、現場感覚と理念の両方を持って、観光産業やまちづくりをマネジメントできる人材の育成を目指します。 	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>地域の理念とビジネスの現場感覚を持って、まちづくりや観光産業をマネジメントできる人材を育成するため、平成 27 年 8 月に「福井県観光アカデミー」を開催しました。</p> <p>県内各地の市町や観光団体、観光事業者など 30 名が受講し、誘客に向けたマーケティングや観光地を持続的に発展させるための経営手法など、全 10 回の実践的な講義を実施しました。</p>

項目	実施結果
<p>2 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ</p> <p>◇「ふくい食ブランド」を地産・外商【部局連携】</p> <p>○海外に売り込む「福井の食」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミラノ国際博覧会に「禅（ZEN）と精進料理の福井」をテーマに出展し、福井の食文化や伝統工芸品をPRするとともに、ミラノ市内で、観光セミナーや商談会等を開催し、誘客拡大や販路拡大につなげます。 ・台湾、タイやシンガポールにおいて、JA、県漁連、企業等と共動で販促活動を展開し、新たに輸出に取り組む県内企業を増やします。 (平成 25 年度 輸出に取り組む県内企業 14 事業者) <p style="text-align: right;">18 事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JAや県漁連、生産者と共動で都市圏の一流ホテルや大手百貨店に食材を売り込むマッチング商談会を開催します。またホテルやレストラン等での「福井フェア」を拡大し、大都市圏の消費者が福井の食を知り、味わう機会を増加します。 (平成 26 年度 福井フェア開催件数 24 件) <p style="text-align: right;">27 件</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>ミラノ万博では、「禅」を切り口に、精進料理や伝統工芸を前面に打ち出し、大本山永平寺の僧侶や職人等 50 人余りが本県の食文化や伝統の技を披露しました。その結果、自治体イベントの中では 1 日当たりの来場者が最多となるなど、高い関心を集めることができました。</p> <p>また、ミラノ市内で開催した観光交流会や商談会では、旅行事業者や現地バイヤーなど約 100 人に本県の観光地や伝統工芸品、地酒などの売込みを行いました。</p> <p>台湾の高級スーパー「裕毛屋」で開催した福井県物産展において 6 社が出展し、実演販売を初めて実施するなど、県や事業者が一体となり福井の食や観光地をアジアの富裕層に売り込みました。</p> <p>東京において、福井銀行と共動しマッチング商談会を開催し、JA経済連や県漁連、生産者、蔵元などの県産食材を、首都圏の一流レストランのシェフや百貨店のバイヤーなどに売り込みました。</p> <p>また、ホテル日航立川やメトロポリタンエドモントなど発信力の高い大都市圏のホテルや百貨店において、「福井フェア」を開催し、大都市圏の消費者が、越前がにや若狭ぐじ、越前おろしそば、地酒など福井の食の魅力に触れ、味わう機会を拡大しました。</p> <p style="text-align: right;">21 事業者</p> <p style="text-align: right;">28 件</p>

項 目	実 施 結 果
<p>3 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に ◇福井の文化をもっと身近に ○子どもの文化・芸術活動 ・小学5年生全員を県立音楽堂での本格的なオーケストラコンサートに招くほか、新たに演奏家を中学校に派遣する「出張音楽堂」を開催します。 ・学校鑑賞会として県文化施設の企画展に児童生徒を招くほか、美術、書道、演劇などの分野において、中高生が一流の芸術家から指導を受ける機会を拡大します。 (平成26年度 一流の芸術・文化を体験する子どもの数 75,000人)</p> <p style="text-align: right;">77,000人</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。(さらに強化します)</p> <p>県立音楽堂において、小学5年生全員が小松長生氏指揮によるプロオーケストラを鑑賞する「ふれあい文化子どもスクール」(7,138人参加)を開催しました。</p> <p>また、今年度から新たに、福井ゆかりのプロの演奏家を中学校に派遣し、コンサートを開催する「出張音楽堂」(20校4,143人参加)を実施するなど、小中学生が本物の芸術文化に触れる機会を拡大しました。</p> <p>県立美術館などでの学校鑑賞会(8,939人参加)、美術館の所蔵作品・資料を出前授業により鑑賞する「ふれあいミュージアム」(3,027人参加)を開催し、小中学生が芸術文化に親しみ、関心を深める機会を提供しました。</p> <p>また、福井の芸術文化を担う人材を育成するため、美術、書道、演劇、合唱、管弦楽などの分野において、中・高校生が一流の芸術家から直接指導を受ける「ヤング・アート・キャンプ」(920人参加)を実施したほか、県立美術館において、美術作家や指導者を目指す中・高校生が、一流の芸術家や大学の先生から日本画の実技等を学ぶ「ふくい天心美術塾」(132人参加)を開催しました。</p> <p style="text-align: right;">77,000人</p>
<p>○文化施設の活性化 ・研究者など外部協力者からの情報を収集しながら、県外に所蔵されている福井ゆかりの美術品等の蒐集を進め、本県所有のコレクションを充実させます。</p> <p>(美術館)</p> <p>・日本初公開のコレクション「エジプト美術展」、大本山永平寺所蔵の国宝、重要文化財等100点を一堂に公開する「大永平寺展」などを開催し、県内外からの誘客を進めます。 (平成26年度 美術館の入館者数 240,235人)</p> <p style="text-align: right;">245,000人</p>	<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>岩佐又兵衛「維摩図」、松尾芭蕉の墨蹟資料など19件の重要資料を、購入・寄贈等により蒐集しました。</p> <p>各文化施設において、話題性が高く、集客力のある特別展等を開催し、本県文化の発信と県内外からの誘客を図りました。</p> <p>美術館では、夏休み期間中に、「古代エジプト美術の世界展」を開催し、来場者は開館以来2番目に多い6万2千人を数えました。10月からは、大本山永平寺所蔵の国宝「普勸坐禅儀」をはじめ、掛軸、襖絵などの秘蔵の名宝を公開する「大永平寺展」と「レンブラント版画名品展」をあわせて開催し、日本と西洋の美を同時に堪能いただきました。</p> <p>また、2月からは、ふるさと知事ネットワークのつながりを活かし、本県と高知県立美術館が所蔵するシャガールの油彩や版画を一堂に集めた展覧会「シャガール展」を開催しました。</p> <p style="text-align: right;">261,000人</p>

項目	実施結果
<p>(若狭歴史博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 若狭の歴史・民俗観光ゾーンの中核施設として、日本遺産記念特別展、武田氏の本家である若狭武田氏を全国にアピールする「若狭武田氏の誇り」などの企画展を開催し、若狭の歴史・文化を県内外に発信します。 <p>(平成 26 年度 (7 月～3 月の 9 か月分) 若狭歴史博物館の入館者数 49,062 人)</p> <p style="text-align: right;">60,000 人</p> <p>(歴史博物館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 県外に流出した本県ゆかりの優れた文化財を一堂に集め展示する「再会・ふくいゆかりの名宝たち」など魅力ある特別展を開催し、本県の歴史・文化遺産の価値や魅力を発信し、県内外からの誘客を進めます。 <p>(平成 26 年度 歴史博物館の入館者数 90,546 人)</p> <p style="text-align: right;">95,000 人</p>	<p>4 月から 5 月にかけて、経典等を中心に若狭地域の信仰の力を紹介する「若狭人の祈り一経一」を開催したほか、夏休み期間には、日本遺産記念特別展「御食国とサバ街道一海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群一」を開催し、全国的にも稀有で多彩な「往来文化遺産群」を県内外にアピールしました。</p> <p>10 月からは、「若狭武田氏の誇り」を開催し、若狭武田氏ゆかりの文化財からその歴史と文化財を紹介し、名門武家である戦国武将 武田氏の本家が若狭であったことを全国に発信しました。</p> <p>また、博物館の案内カウンターでは、若狭地域の寺社や博物館で特典を受けられる木簡パスポートを昨年の 1.5 倍となる 7 千枚以上発行し、同館を拠点に周辺の歴史・観光スポットを周遊する動きを促進しました。</p> <p style="text-align: right;">59,000 人</p> <p>春季企画展「カメラが撮らえた皇族と明治の偉人たち一福井が生んだ御用写真師 丸木利陽一」では、福井出身の有名写真家・丸木利陽の作品などを一堂に集め紹介しました。</p> <p>秋季特別展では、若狭酒井家伝来の国宝「油滴天目茶碗」など、かつて福井に所在した優れた文化財を一堂に紹介する「再会・ふくいゆかりの名宝たち 里帰り文化財展」を開催し、本県ゆかりの歴史文化遺産への関心を高めました。</p> <p style="text-align: right;">98,000 人</p>
<p>◇福井が誇る歴史遺産の発信</p> <p>○一乗谷朝倉氏遺跡のレベルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国レベルの中世の研究拠点として、研究・収蔵機能を充実し、新たに展示・ガイダンス機能を備えた博物館の整備に向け、基本計画の策定に着手します。 復原町並での戦国城下町の人々の生活再現、特別名勝庭園の再生・鑑賞化など、スケール感のある歴史的空間として整備を進めます。 県と福井市との間で、業務や役割を十分に協議し、推進体制の強化を図り、ミュージアム化を進めます。 資料館での大型特別展「一乗谷 戦国城下町の栄華」、特別公開展を開催し、出土資料を積極的に公開します。 <p>(平成 26 年 朝倉氏遺跡観光入込客数 69 万人)</p> <p style="text-align: right;">75 万人</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>一乗谷朝倉氏遺跡博物館(仮称)整備基本計画策定委員会を開催し、博物館の基本方針、調査・研究計画、展示計画、管理運営計画に関する県内外の有識者からの意見をまとめ、博物館整備基本計画を策定しました。</p> <p>一乗谷朝倉氏遺跡では、9 月から特別名勝庭園の鑑賞の視点場を再現して特別鑑賞会を開催したほか、10 月からは復原町並で中世の職人や城下の人々の暮らしぶりを実演再現しました。</p> <p>一乗谷朝倉氏遺跡資料館では、9 月から、特別史跡指定 45 年を記念し、「一乗谷 戦国城下町の栄華」を開催しました。「洛中洛外図屏風」の表現手法で一乗谷繁栄の様子を映像で初公開するなど、最新の研究成果をもとに戦国城下町の栄華と歴史的価値を発信しました。</p> <p style="text-align: right;">108 万人</p>

項 目	実 施 結 果
<p>○福井の遺産を日本・世界遺産へ</p> <ul style="list-style-type: none"> 一乗谷朝倉氏遺跡、白山平泉寺、大本山永平寺など中世の歴史遺産をはじめ、本県に集積する魅力ある遺産群の「日本遺産」認定を推進します。 越前和紙の技術保持団体について、ユネスコ無形文化遺産である「和紙」への早期追加登録に向け、教育委員会と共動し、国の重要無形文化財への指定を推進します。 道元禅師が禅の奥義を著した大本山永平寺の国宝「普勧坐禅儀」のユネスコ記憶遺産登録を推進します。 	<p>〔成果等〕引き続き実施します。</p> <p>日本遺産の第2弾の公募（国認定：28年4月予定）に、県、福井市、勝山市が一乗谷朝倉氏遺跡と白山平泉寺をテーマに共同で認定申請を行いました。</p> <p>このほか県内では、大野市が豊かな湧水をテーマに、越前町が陶芸をテーマに全国の六古窯産地と共同で、それぞれ認定申請を行いました。</p> <p>越前和紙については、本年、教育委員会が越前和紙の技術保持団体を県指定文化財に指定しました。今後、国の重要無形文化財の指定、ユネスコ無形文化遺産追加登録に向け、引き続き国等に働きかけます。</p> <p>国宝「普勧坐禅儀」については、ユネスコ記憶遺産の国内候補の公募に応募しましたが、全国から16件もの申請（選定は2件）があり今回は選定に至りませんでした。次回公募が2年後に予定されているため、引き続き登録実現に向けて取り組みます。</p>

項目	実施結果
<p>4 豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に</p> <p>◇ 景観を県民資産に</p> <p>○ 「わがまち景観」の保全継承</p> <p>・古き良きふるさとの伝統的民家・まちなみ保存の拡大を図るため、「福井ふるさと百景活動団体」と「伝統的民家群保存活用推進地区」の認定・指定を継続して進めます。</p> <p>(平成 26 年度 (累計) 福井ふるさと百景活動団体・伝統的民家群保存活用推進地区 55 団体)</p> <p style="text-align: center;">10 団体増 累計 65 団体</p> <p>・景観づくり活動団体同士の交流会を充実させ、さらに団体等の活動に関する情報発信を積極的に行うことによって、県内全域における景観づくり活動を活性化します。</p> <p>・国の重要文化的景観や重要伝統的建造物群保存地区の選定に向けて、調査・検討を行い、地元市町等の協力も得ながら国へ働きかけます。</p> <p>・白山の眺望ポイント（白山伏拝等）の視点場整備に着手し、白山の魅力を発信する機会を拡大します。</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>福井ふるさと百景選定地で、夜間景観の創出や植栽、自然体験会の実施など景観の保全・活用に取り組む「福井ふるさと百景活動団体」を今年度新たに 6 団体認定し、その活動を支援しました。</p> <p>また、伝統的民家が集積している福井らしい集落やまち並み景観の保全に取り組む「伝統的民家群保存活用推進地区」を今年度新たに 5 地区指定し、その活動を支援しました。</p> <p style="text-align: right;">11 団体増 累計 66 団体</p> <p>市町景観担当課長会議等を通じて、景観づくり活動の活性化に向け市町との連携強化を図りました。また、景観づくり団体の活動支援を行うとともに、団体同士の交流会を 28 年 3 月に高浜町で開催し、活動の輪がさらに広がるよう働きかけを行いました。</p> <p>重要文化的景観の選定については、越前海岸沿いの水仙畑群について、今後、専門的な調査を行うとともに、福井市、越前町、南越前町と協議を行っていきます。</p> <p>白山の眺望ポイント（白山伏拝等）の視点場整備に向けて、現地調査を実施し、今後、整備について関係地元市町や景観づくり活動団体等と協議を進めていきます。なお、その他の眺望ポイントについては、大野市の戌山、亀山、鯖江市の三床山、越前町の越前岬において、ビューポイント整備を行いました。</p>

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)